

□連載随想□

①

酒は涙か……

阪本 勝
え・中西 勝



関西学院大学が東神戸の原田の森一帯にあったころのふるいふるい、思い出はかずかぎりない。その広い構内の西のはずれに正門があつてその正面から布引にいたる電車道が当時天下に知られた上筒井カフエー街で、道の両側はことごとくといつていいほど、紅灯緑酒の家づくりだった。

正門から三十メートル西のあたりにアカデミーという店があつた。船の羅針盤の古手みたいなのや、ルイ王朝時代の椅子だとかを飾りものにして、変りだねの客を集めていた。外人の高級マドロスなどもよく姿を現わした。ただし女の子はひとりもない。杉本という、ぼくと同年のおっさんが散髪屋の職人みたいになかつこうでシェークしているばかり。今でも場所は違ひがたまに立ちよると、絵が上手になって、ネズミがブタに見えなくなったそうだ。ここでぼくははじめて谷崎潤一郎という人物を見た。彼の連れはいつも上山草人で、スタンドの端で耳をすましてきいていると二人の話はテットウテツビY談だった。連歌のよなものも書きあつていた。ぼくは谷崎さんのす

ばらしい？ 一首をはっきりおぼえているがこ
ではぶくことにする。

このアカデミーがまた学院の先生や先徒たちの
ドグロのまきどころだった。ほくもときどき河上
丈太郎教授をひっぱってドアを押した。四十年も
昔のことだから、河上さんの髪もヒゲも黒く、気品
と風格の高い教授だった。ところである日のこと
ふたりで映画を見にいった。当時世界的大俳優だ
ったドイツのウエルネル・クラウスの主演で、筋
を簡単にいうと、こういうことだったと記憶する。

善良で信心深い一人の銀行員があった。あると
き彼は社命により、大金をたずさえ汽車で遠方の
町に使いにゆく、列車に乗ると隣の席に妖麗な美
人がいる。旅のつれづれで話に打ち興じているう
ちにしぜんに親しくなり、下車した都会の夜、彼
は女からさかんに酒をすすめられ、ついに一夜を
同床ですごしてしまう。翌朝めざめてみれば、女も
いないし金もない。彼はついに生ける屍となって、
掃除人夫などやりながら、その町で老いてしまう。
ようやく死期の近ずいたことを自覚した彼はある
年のクリスマスの夜、何十年ぶりになつかしいわ
が家に帰り、しんと降りつむ雪の庭から妻子
がクリスマスを祝っているありさまを窓ごしに眺
め、翌日墓地で凍死体となって発見される……。
帰りにアカデミーに立ちよった。河上さんは、
むつりだまりこんで、何にもしゃべらなかつた
がしばらくして、つぶやくように「阪本君、人間
どんなに信仰心があっても、ああいうことはあり
得るんだね。こわいよ。キミ、こわいよ」といっ
た。ほくは黙ってきくよりほかなかった。この映
画の印象は、河上さんの胸にきつくくいこんだら

しい。あれから約四十年おつきあいを願っている
が、およそ文学芸術などについては、上記の話が
あとにも、さきにも、ただいっべんで、ほかに何
もきいたことがない。

それから暫くして、ほくは河上さんを上筒井の
バーに案内した。ボンベイアンという中級のバー
だった。バーといっても、その頃は、エブロン掛
けの女性が酒やお茶を持ちこぶウブなものだっ
た。だから河上さんも安どしてたのだろう。ほく
もはじめてだった。

「ひとつ何か歌ってくれないか」とホステスに
たのむと、U子という娘がやおらたちあがって、
「酒は涙か……ためいきか……」と悲しげに唄
い出した、河上さんは茶をのみながら、静かに耳
を傾けていた。そしてほくの耳ぎわで「あれ何の
歌だい、なかなかいいじゃないか」といった。あ
の唄は妙に中年男の心に沁み入る。

もつとやってくれんかとほくが頼むと、U子は
ますます感傷的な声で「まぼろしのかげを慕いて
……」とやりだした。あの感傷的なメロディは、
いたく河上さんの心に沁みこんだらしい。

河上さんはだいたい音痴といわれている。讚美
歌を歌っても、君が代聖唱でも、ロクに半音が出
ない。ああ、しかし、半音が出ようが、出まいが
あれだけの「人」が今の日本にあるだろうか。

□随
想□

神戸三中 弁論部

富士正晴

え・中西 勝

わたしが入った時、三中は五年から一年までずっと揃った。つまりわたしは五回生である。のん気な中学校で、上級生が下級生をいじめるということがない。近藤校長の方針で、上級生が下級生を可愛がるのはいいが、いじめるのは紳士らしくないというわけである。そんなことを校長が決めたところで、いじめる気になれば、どうとでもいじめる事は出来る筈だが、いじめるという発想が上級生になかったらしい。それをいいことにして下級生が上級生をいじめているのを一度見たことがあった。三八式歩兵銃が沢山あって、軍隊式教練はさかんな方だったにかかわらず、軍隊のあの厭らしい下の者いじめの精神は入って来ていなかったのであろう。軍隊へ入ってはじめて、ああ三中



はよかったなあと思わぬでもなかった。何思っただか、わたしは一年の時、弁論部に入った。この弁論部というのが、又妙な連中のいるところで、一番妙なのが花森安治だった気がする。彼は小説を書いていて時折、われわれをつかまえて読んで聞かせた。花森には人を食ったところがそのころからあり、演説度胸は万点といってよかった。勿論、「暮しの手帳」のあの花森安治である。演説度胸がいいといえば、現在、筑摩書房の重役になっている土井一正（当時は岩崎といった）も花森と負けず劣らず人を食ったところがあり、中学二、三年でチエホフ論を書いたりする位まっていた。校外の対抗弁論大会に出すのにはもってこいの選手たちであった。

今は大阪で共産党で医者をしている潮田富士男という人物がおった。彼が一番弁論部の先生を悩ませた。弁論大会の時は、あらかじめ先生に原稿を見せねばならぬことになっているが、潮田はその日になっても、まだ出来ていませんと言つて、見せない。そして登壇すると、十分練習され尽したうまさで、部落問題や革命問題など、先生にとつてはなほだ困る問題を喋りまくる。先生が何とかしようにも、先生以上に大人みたいな落着きはらった態度なので始末に負えなかった。

姓名は忘れたが、ヨーロッパ人との混血のような美男子の弁論部員もあり、彼は「まっ赤な血がシベリアを蔽つたのであります」とか何とかいうことを言いたがために登壇するらしく、この派手なロシア革命宣伝家にも学校当局はいささか手を焼いていたようである。しかし、「真つ赤な血」の時以外は、彼は花森の小説の代りに、自分と女学生とのロマンスをひそひそと部員をあつめて聞かすのが趣味のようであつた。まさに連続口演である。

こうした校外派遣向けの弁士たちとちがつて、わたしは校内専門であつた。弁も立たなければ、見栄えもしなかったからであらう。わたしが演壇にのぼると、テーブルの上に首だけ見えていたそうである。そのためにわたしを記憶している上級生がおるから、よほど滑稽だったのにちがいない。何を演説にしたのやら、一向に覚えていないところを見ると、有名な演説の本のあっちゃこちつをつぎはぎして喋っていたのらしい。今に至つても、余り喋るべきものが自分の内部にないように思われるのだから、そのころでは尙更のことであ

る。五年生の時やつた演説だけは覚えてゐる。余り沢山一時に勉強すると、頭からそれがこぼれ出してしまつて、結局何にもならんから、努めて余り勉強せぬ方がよいという趣旨であつた。これは公民の先生にひどく同感され、個人的にほめられた。思つてみれば、その先生はそのころ高等文官試験という大変むかしい試験を通ろうと、しやにむに勉強していたのであつたらしい。そのためにわたしの言つたことが、ひどく胸にひびいたらしいのだった。その先生はしかし大いに勉強して高文を通つたのではあるまいか。わたしの方は、中学五年生以後、勉強論において余り進歩がなく、今も、余り沢山のことを一時に覚えておることが出来ない。

弁論部の先生が誰であつたのかは、どうしても思い出せぬ。学校をやめるとぐずつて困らせた岡竹先生や、作文を見てもらつた和田先生や、いつもトンチンカンな答をして失笑ばかりさせた英文法の斉藤先生や、角の三等分をやるうとして無駄な努力をするのにつき合つてくれた黒阪先生や、陸軍軍医学校へ行けとしきりにすすめてくれた足立先生や、そうした先生方は思い出せるが、弁論部の方はだめである。

つまり、部員の方に印象強烈なのが居りすぎたのだらう。しかも、花森にせよ、潮田にせよ、混血の人にせよ、これらは四回生で、土井は五回生であつて、一、二、三回生のあたりを一向に思い出せない。しかしこれは、わたしが年より尙、晩生であつて、そんな大人らのいつてゐることが全然判らなかつたためかも知れない。



呉井陳子 みよーや

電話神戸③三三八八九番
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪⑧五五四八番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路②三二二一番
衣装部三宮町三丁目柳筋
電話③五一六五番

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

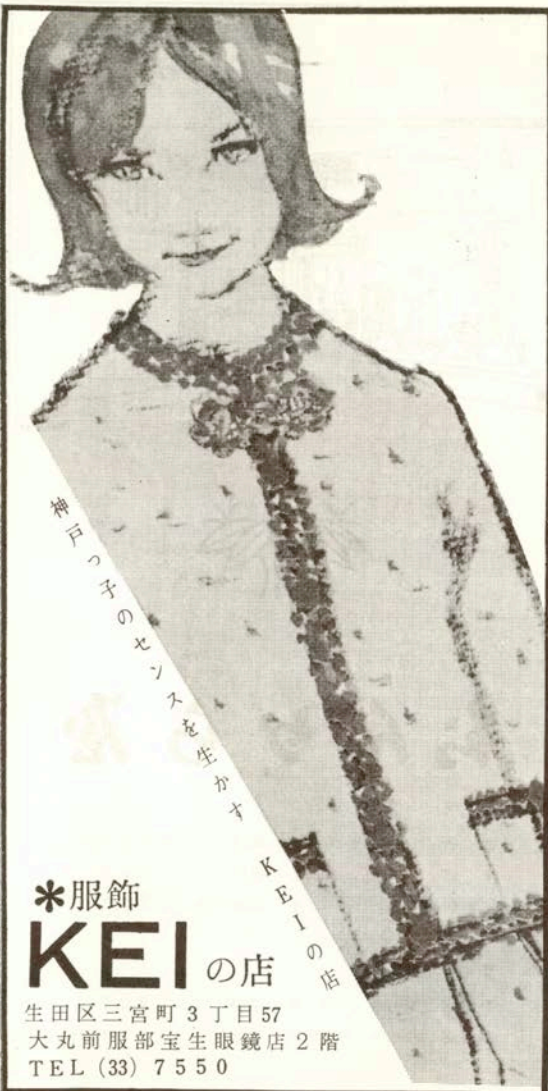
東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京

新橋店 / 新橋 2 丁目・電話 571-0807

銀座店 / 小松ストア一階・電話 572-5151 (代)



秋のセンスを生かす

***服飾**
KEIの店

生田区三宮町3丁目57
大丸前服部宝生眼鏡店2階
TEL (33) 7550



マキシン 美容室 神戸店

秋から冬への美しいヘヤー
モードは、ゆったりとシッ
クなムードのマキシン美容
室をご利用ください。

Maxine Beauty Shop

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電 ☎ 4 9 1 7
西寺尾店 (文化センター内)・横浜元町店 ☎ 0312
軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室

□ 神戸っ子放談 □

柏 井 健 一 <柏井紙業株式会社社長>



神戸を西日本経済の コントロールセンターに

ヨコハマに負けたらあかん

「生まれたのが神戸で学校はもちろん、軍隊も神戸でした。商家だから、親父が商業学校で良いというので県商へ行きましてね。県商を卒業したのが昭和十四年で、それから甲陽高商に入りました。第一回の入学です。商大を受けたいと思ったけれど、十六年に戦争がはじまっ

て、国の生きるか死ぬかという時でした。それで伊藤忠に入って、まもなく軍隊にとられたんです。教練が丙だったので幹部候補生の試験は絶対ダメだといわれたのに不思議に通ってしまった。千葉の高射学校へやられました。高射砲の学校ですよ。そして神戸に帰ってきてから終戦まで動かずにいて、神戸製鋼の防衛にも行きました。加古川に入隊したとき三百何人かおったのが、神戸に残

ったのは結局わたし一人でした。戦争でなくなったひとで、ことに大正うまれの人間は前線の消耗品だったようですね。終戦後は家に落ちついて、この商売を続けています。そういうことでやっぱり神戸には愛着があります。子どもの頃を思い出すと、昔の神戸の良さが消えていくのが淋しいですね。小学校がトリア・ロードのそばの北野小学校で、税関の官舎に住む子ども達と一緒にでした。港まち神戸に誇りをもっていたのですよ。ちょうど第四突堤ができる頃で、毎日工事しているのを見に行つて、ニューヨークにも負けないくらいの大な港ができるのを夢見ていました。昭和八年、九年のころですか、人口が七八万四千人だったのを記憶しています。ヨコハマに負けたらあかんと、子どもながら気をもんでいました。船の形や大きさなども、みんなおぼえてしまつて、港に入つてくる船を見てあれは何トン級だ。〇〇丸と同じだなどといつていたものです。」

紙の原料消費がすくない神戸

「家の商売ですか。神戸に住みついてから三代目ですが、厳密にいうと二代目です。紙の商いははじめて、戦前は和紙の間屋をしていました。戦後は需要の変遷につれて、扱い品目がかわつてきました。洋紙が主になつて、それからパッケージが発達してきたので紙器関係の板紙が伸びています。まア、神戸は製品消費が多いところ出版印刷の大手があるような原料需要の多いところとはちがいます。戦後はものの動きがほとんど東京中心となつてしまつて、紙の消費も東京で製品にされたのが主ですね。神戸は文化程度が高いのですから、出版関係での原料消費があつて良いと思います。港まち神戸に住んで仕事をしている以上輸出もせんらんと思ひましても、沖繩にも出しています。それに阪神間にも、まア、すこしは伸びています。大阪と姫路に店をもちましたしね。そういえば、姫路はお城のある街だけに神戸とちがつて地元到店をもたない会社からは買わないという空気が

があるようですね。明治の末期に創業して以来六十年ちかくなりますが、時代の移り変わりの中で発展していくむずかしさがあります。神戸もこれから変つていくでしょうし、その変化していく方向を見ながら、商売の計画をあわせていかなければいけないですね。」

神戸青年会議所は十六名からはじまつた

「青年会議所が日本ではじめに結成されたのが、もう十六年ぐらゐ前のことです。その当初から神戸でもつくらないかという誘ひはうけていたのですが、その頃、若手の経済人は、忙しいさなかでしたので一応みあわせていました。ところが、それから七、九年もたつうちに各地にできて盛んな活動をはじめていたのです。兵庫県では西宮が一番早くて、日本でも四、五番目でしょうか。その次に姫路でも結成されました。そうなつてくると、神戸市商工会議所の方でも放つておかないし、また青年会議所の中央でも、神戸にないのはおかしいから、ぜひ結成してくれという話になつたようです。それで、四年の正月だったか、正月の三日に秋田博正氏に会つたところ、青年会議所を結成したらどうかという相談を受けているんだ、なんとかして若手を結集してみようではないかと、その時二人で相談したことからはじまつたと思います。若手の経済人が集つても、果して続くかどうか心配していたのですが、乾さん、岡崎忠さん、榎並正一さん、宮地要二さんなど、商工会議所や同友会の方々が相談に乗つてくださったので、ようやく十六名が揃つてはじまつたわけです。もう六、七年もたちましたか、今では会員数が二百名を越して、これでひとつの勢力にまで成長していますね。神戸経済界の明日を担ひつつある勢力になっています。」

西日本経済のコントロール

センターとして神戸の発展を

「西日本経済と瀬戸内経済圏の課題、というようなテ

ーマで、経済同友会が中心となって各地で少壮懇談会を開いてきましたが、今度は神戸がそれを引き受けて総まとめをやることになりました。そこでも、多くの問題が山積みしているのですけど、地域開発の基本的な考え方が問われています。中国縦貫道路と夢のかけ橋ができる、神戸はどう変わるか、そして瀬戸内の経済圏は、ということなのです。姫路以西、松山、香川などの諸都市と、大阪、神戸とのつながりがどうあるべきかについては、およそ二つの意見があるようです。つまり、瀬戸内は阪神経済圏とつながって発展すべきだ、阪神の力を軽んじてはならない、とする意見がひとつ。もうひとつは瀬戸内はいつまでも阪神に従属すべきではない。独自の経済圏をつくっていくべきだとする意見なのです。わたしは阪神の力を認めながら、交通の発展に伴って瀬戸内経済圏が確立していくのだと思う。だから、阪神、とくに神戸は、この西日本全域の産業交通のコントロールセンターになるべきだと思うのです。西日本と阪神の接点としての役割を強化していく、流通が便利になったので没落したというような配慮が必要ですね。神戸経済の地盤沈下を怖れているのではダメだと思います。

神戸はもともと外来者にとっていい街なのです。人情はよいし、排他的でない、生活環境もすばらしい。そんなに良いところではあるが、どこかひとつバックボーンのようなものがないのですね。それは、神戸人同士が郷土のために協力していくこうとする空気がわりあいと少い。外から来たものは良くとり入れるが、地場産業を育成していくのはあまり上手でないのですよ。地元で固まろう。團結しようという意欲が少いと思います。地元をよくしていこう、自分たちがよくなろうという意欲をもつて、神戸をたんに流通の経路にするのではなくて、西日本経済のコントロールセンターにしようという展望をもちたいと考えます。」

怪力のゴルフ、飲まずの酒

「趣味といっても、まア、ゴルフに小唄ぐらいのもの

ですか。酒は一滴も飲まずにバーを歩きまわるというので、いつのまにか有名になってしまいました。サントリールビールを激励する会というのがあって行きましたが、飲まんでも宣伝はします、といっています。こんなにデカイからだして何にも飲まんという、皆さんなかなか信用しませんでした。ゴルフは今、広野のメンバーですがあまり上手ではありません。ハンディは十八です。けれど距離を飛ばすことにかけては、これは凄いですよ。キャディが球をさがすのに苦労がいらんいうてます。なんせ、林をこえた電車の道のみこうまで飛ぶんですからね。打ったときの初速だけは、経団連会長の石坂さんの長男にあたるひとと一緒にまわったときにいわれましたが、なんと、ハンディ三に相当するのだそうです。しかしスコアがまとまりにくいのも名うての方ですね。まア、なんといっても、ゴルフは遠くに飛ばさんことには面白味がないし、そこにまた酸臭味があるんだと思います。球の威力からいけばハンディ三になれる可能性があることはわかりましたが、現実には十八がむずかしいところですね。」

港の整備に市民全体の参加を

「ロータリークラブに十年ほど参加しているので、先日、ロータリー主催の青少年の海洋訓練で話をしてきました。その時、子どもがもつと海になじんでほしい、現状では港を忘れがちだと感じてきました。神戸は港の街として発展し、大阪にけっして従属することのない地盤を築いてきたのですから、港を整備して良くしていくことに市民全体が参加してほしいと思います。日本の東南アジア、中国、朝鮮への窓口でもあるし、外国貿易の一大拠点なのです。その港としての誇りを、みんながわかって欲しいのですね。それに、神戸はジョッピンゲセンターとしては他に類がないほどすばらしいのです。が、もっと多くの分野で高度な発展を迎えたいものだと思います。」

経済ポケット ジャーナル

台風二十三号 二十四号
神戸を襲う

台風二十三号が九月十日午前神戸を襲い、神戸は一時、真昼の暗黒街と化した。台風は予想より早く姫路を直撃、あおりをくらった神戸は午前十一時ごろ地上で三十米以上、海上で四十米以上の強風。また九月十七日にも二十四号台風が吹きまくり、荒れに荒れた。

十日は市営登山バス、ロープウェイが始発から運休したのを始め、山陽電鉄、神戸電鉄、阪急電鉄、市電バス、全但、阪急、神姫の各バスがいつせいに運休。市民の足は一部のトラックなどを除いて完全にストップ。海でもハシケなどは港内に群集したが、沈没船も続出。昨年浸水した三菱電機、三菱重工にまた浸水、神戸製鋼所にも浸水するなど、各所で海水が流入、商店街も固く戸を閉め、完全に神戸の生命は一時的に止ったような悪夢の日だった。



架橋県民大会
大きな成果あける

明石―鳴門を結ぶ夢のかげ橋の早期着工をめざす初の兵庫県民大会が九月五日中央から瀬戸山建設、中村運輸両相を迎えて盛大に開かれた。大会には金井兵庫県知事、原口神戸市長、武庫島副知事、浅田神戸商工会議所会頭ら地元から約三千人が参加し、大きな成果をあげた。

大会は金井知事、原口市長らの「明石―鳴門架橋は西日本経済の発展、ひいては日本経済の発展、国土開発のために早急に実現すべきだ」という架橋の重要性を強調したあいさつで始まり、中村運輸相は「経済効果からみて、明石―鳴門の架橋が第一優先であることは既定の事実である」と明言した。架橋地点を船上から視察した瀬戸山建設相も「明石―鳴門架橋は国家的大事業であり、できるだけ四十一年度着工にもっていきたい」と述べた。実力者の三木通産相も九日、高

松で「本州と四国を結ぶ橋は二つは必要だが、明石―鳴門ルート優先は政府の方針である」と言明しており、架橋大会の成果はかなり大きかったといえよう。

裏六甲に肉牛の放牧センターを！

六甲山開発は着々と進み、こんどは食肉業者の団体である兵庫県食肉環境衛生協同業組合（理事長平井義幸氏）と神戸食肉事業協同組合（同岸田伊兵衛氏）が共同で裏六甲に肉牛の放牧センターをつくる構想を打ち出した。両組合とも肉牛不足から牛肉が値上りしたため、肉牛飼育に手を出して価格安定に役立てようというのがねらいで平田、岸田両理事長とも「最近肉牛不足で牛肉が値上りしているので、センターを計画、農林省に国有地を払い下げてくれるよう働きかけている。神戸市議にも賛同者が多い。関西では牛肉が

うまいため豚肉の愛好家が少ないが、もう少し豚肉も食べてもらいたい」といつている。

内閣総理大臣賞を獲得した神戸ケミカルシューズ

神戸のケミカルシューズは戦後生れた特産物だが、いまや押しも押されぬ神戸の代表的な特産物となった。業界でのトップブリダの神戸繊維工業はこのほど全日本ゴム履物卸商業組合主催の第二回ゴム履物コンテストコンクールで業界最高の栄誉である内閣総理大臣賞を獲得した。大手メーカーに伍しての獲得だけに神戸の業界あげての大喜び。石井社長は「過去のゴム雨靴の概念から脱皮してナイロン織物を主材とした新製品ナイロンブーツが認められてうれしい。これからは内需だけでなく世界市場に前進したい」と意欲を燃やしていた。

KOBEオフィスレディ



大賀 澄代 (20才)
興和火災海上保険KK勤務

会社でのお仕事は電話交換手。この仕事を始めて6カ月目、声によつて相手の性格も少しはわかるとか……。趣味は手芸、お料理とぐつと女性的ではあるが県立兵庫高校在学中はソフトボール部のピッチャーをやっていたという健康でほがらかな明るいお嬢さん。

若さと
スタミナを
プラス

扇雀オコシ



鴈治郎飴本舗

本社
神戸湊川神社電停前
電話③41242

営業所工場
生田区仲町通4丁目
電話③42663

*さんちか レディスタウン
コスチュームアクセサリー店

プリンス

TEL ③92855



コスチュームアクセサリーの店

芸 げい 夢

神戸店 / トアロード ③8643 2293
大阪店 / 心斎橋ロビー (211)5153 1044
心斎橋名店街(小太丸ビル) 211 8503



秋……

シックな靴と舶来雑貨で
すてきなドレスアップを

靴と舶来雑貨 **クロス**

舶来雑貨 神戸トア・ロード TEL 330998

婦人靴 三宮地下街(さんちかレディスタウン)

大阪阪神百貨店 TEL 361 1201

世界の一流品

スタイルビル3階

ハンドバック・スーツ

その他いろいろ

STYLE aoi

三宮センター街1丁目
スタイルビル TEL 39-3985

兵庫県ガンセンター

松原 新一 撮影／緒方しげを



ガン制圧の拠点として活躍を続ける兵庫県ガンセンターの威容

あるガン患者の場合――。

N氏。体の変調を覚え、ある開業医の診察を受けた。胃潰瘍という診断結果であった。治療が続けたが、病状はいつこうに快方に向わない。そこで、ある大学の附属病院の門をくぐった。事実は胃ガンであった。そのことは家族にだけしか知らされなかった。直ちに手術が行なわれたが、既にガンは全身に転移しており、もはや手の施しようがなく、そのまま閉腹。あとは死を待つのみという状態であった。本人は手術が成功したものとばかり思いこんでいた。病院側は、もはや治療の余地なしとみて、退院をすすめた。患者は自宅療養をすることになった。「胃潰瘍の手術も無事完了し、目下は体力の回復を図るべく自宅療養に励んでおります。ご心配をおかけしましたが、全快のあかつきは、また、ともに酒をくみかわしたく……云々」という快癒の喜びをつづったハガキを、患者は友人・知人に送った。その後一カ月も経たぬ間に、彼はこの世を去った。

悲劇である。不治の病いとされるガンゆえの悲劇である。患者自身、胃潰瘍が全治したと信じこみ、なにゆえ突然に死の世界に追いやられなくてはならなかったか、まるでのみこめぬままに人生を終ったらしい形跡が、まことに痛ましい。このような死に方ほど、人間にとって屈辱的なことがまたとあるだろうか。

だが、このような悲劇は、ひとりN氏の場合だけにあるものではない。

発ガンの原因が分明でなく（それが解明されれば、人間の発生の秘密自体も明らかになるだろうといわれる）早期発見、早期治療以外に、絶対的な治療方法をもたない以上、ガンゆえに起こる悲劇はあとを絶ちそうもない情勢である。

だが、だからといって、人類の敵とまでいわれるガンの恐怖に、ただ拱手傍観しているだけが能でないのもことわりだろう。ガンの完全制圧がたとえ今は不可能だとしても、少しでもガンを予防し、早期発見と早期治療を可能にする道を探すのは当然のつとめであろう。

兵庫県ガンセンターが設立された主要な動機も、ほぼそういう所にある。

ガンセンターの目的については、「本会は、ガン制圧を達成するため、ガンに関する啓蒙運動を展開するとともに、ガンの予防、早期発見および治療に関し必要な事業並びに調査を行い、もって県民の保健福祉に寄与することを目的とする。」とあり、また、その主な事業としては次の7つの点があげられている。

①早期発見・早期治療のガン知識の普及 ②ガンの予防診療、検査のため附属病院の運営 ③ガンの集団検診と通信検査、医療相談 ④ガンに関する疫学的調査研究 ⑤ガンの診療技術の研修指導 ⑥ガンに関する各種の研究會、講習會の開催 ⑦全国、諸外国の対ガン機関との連絡と協同活動。

ガンセンターの附属病院窓口の受付場は午前9時に始まる。

外来診察室前のベンチには、診察を待つ患者がいちように不安そうな表情で腰かけている。みな、申し合せたように黙りこくっている。あたかも、めいめいが自分の秘密をのぞかれまいとしているかのように。これらの人々は既にガンに犯されている患者か、そうでなければ、

少くともガンではないかという危惧を抱いてガンセンターを訪れた人々ばかりだという先入観があるせいか、全体に重苦しい雰囲気を感じさせられるのはどうしようもない。

ある老人に話しかけてみた。はじめは迷惑そうな顔つきだったが、いろいろたずねているうちに、次第に氣がるに答えてくれるようになった。老人には若い娘さんが付き添っている。あらまし次のような話だった。

「ここには初めて来られたわけですか」
「はい」。

「ご自分で体のどこがおかしいということを感じられたのでしょうか」

「右の乳のあたりにしこりができましたんです。どうも変な具合だと思ったものだから、近くの医者に話せたら乳ガンやいუნですわ。すぐ手術せなアカんいわれましたんですけどな。男でも乳ガンになるもんですやろかなア」。

瓜と毛髪以外は、どこにでもガンは発生するものだというある医師の言葉を思いだしたが、それには口出さず「女の人の乳ガンというのはよく聞きますけどね」といったら、

「そうでしょう。私も変だと思っから、いっぺんちゃん調べてもらいたいと思ってますのや」

ガンセンターの生みの親は、前兵庫県知事の阪本勝氏である。

阪本氏が実父を胃ガンのために失ったとき、氏のなかには「ガンと戦い、ガンを制圧するためのガンセンターをつくらねばならぬ」という決意と使命感のようなものが芽生えたのだという。

この願いが、多くの人々の共感と協力によって実を結んだのは、昭和37年9月1日である。兵庫県ガンセンター（財団法人）設立の時であった。こうして、ガンを防ぎ、ガンと戦おうとする多くの人々の願いが一つにな

り、ガン制圧の一つの拠点が生まれたことになる。

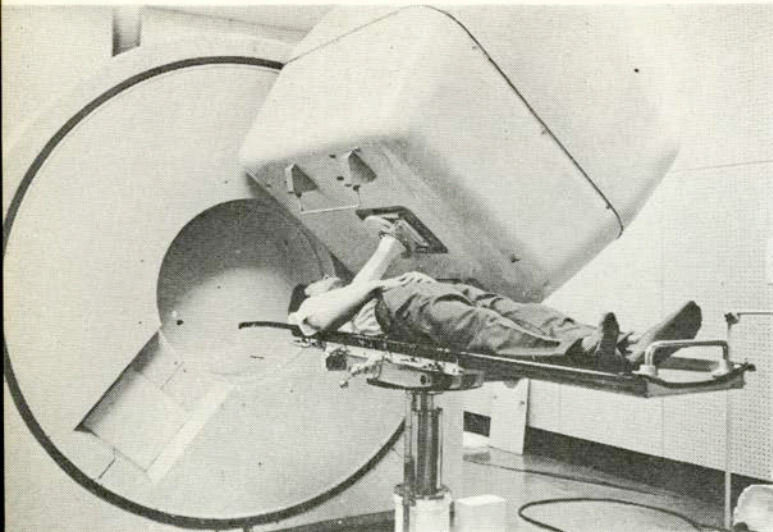
ガンセンターには、いくつかの特色があるが、そのなかでとくに注目したいのは、相談室の設置とその働きであろう。それは、一種の医療社会事業と考えることができる。病気の原因をとり除き、患者を健康体に回復せしめるのが医療の本質であることはいまでもないが、よく病いは気から、といわれるとおり、たんに肉体だけが治療の対象でないこともまた確かなのである。そこには治療を妨げる多くの悪条件がある。社会的、心理的、経済的、家庭的な諸問題のために、円滑な治療はかどらない場合があるのだ。その悪条件をとり除くのが相談室の役割といえるだろう。

相談室を訪れ、乳ガン再発の恐れを訴えたある婦人の場合——。45才。病名は、右乳ガン術後再発。2年ほど前にある病院で乳ガンの手術をうけた。だが、最近また

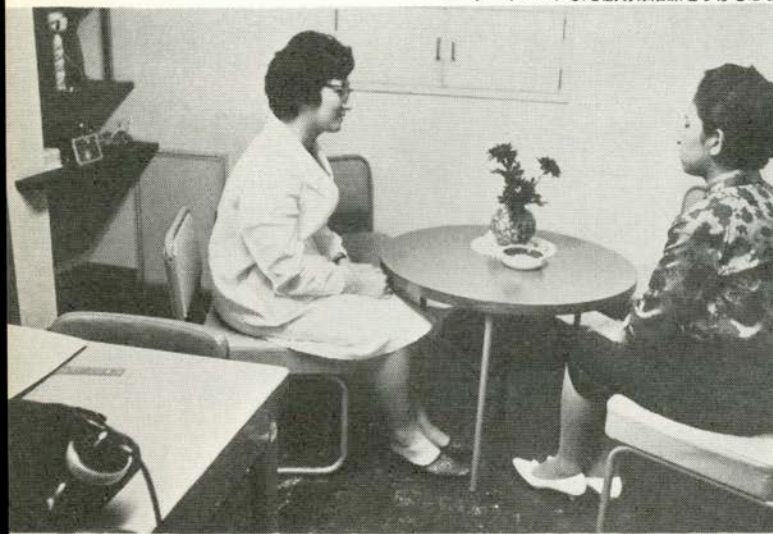
しこりが触れる。ガンの再発ではないかという不安が頭をかすめる。ガンセンターの存在を新聞で知り、センターならばガンの全身転移状態を調べてもらえるだろうと思つて、相談室を訪問した。

椅子にすわった彼女の表情は暗く、うつむいたまま黙りこんでいる。たずねられて、やっと口を切るというありさまだった。

会社員の夫との間に小学校6年の男の子がいる。夫は彼女より10才も年下である。この年齢差を彼女はいつも気にして暮らした。最初の乳ガンの手術をうけてからは、体の状態がすつきりせず、いつも「しんどい」を訴えていた。「病気が治らないなら、家に帰れ」と三度も冷たい仕打ちをうけた。弱まった体と心には、この言葉はひどくこたえた。経済状態もよくない。夫の月収は3万5千円だが、最初の入院手術の時に会社から7万円借



レータートロンによる放射線治療を受ける患者



カウンセラーの吉岡康栄さん(左)は患者や患者の家族のあらゆる相談ことをいってにひきうけている(相談室にて)

金をしている。こんどまた手術が必要となれば、また借金がふえる。もし、再発でないなら、夫の希望するところ、離婚しどこかに住みこんでも働きたい。再発の場合は、もはや生きていく望みはない。夫は日曜日でも、友人の家に遊びに行ってしまう、少しも病気の心配などしてくれない。前途に希望を失ったという暗たんとした表情だけがそこにあった。

ここには、ガンによる死の恐怖を背負い、しかも、家庭不和や経済問題がからんで、深刻な情緒不安定に悩んでいる一人の患者の姿がある。たんに、入院して検査を受け、手術しなさいとすすめるだけでは、問題は片づかないのだ。

先ず患者の心理的、情緒的な不安を解消する方向に導いてゆくことが必要になる。

このような患者の相談を一手に引きうけている医療ソーシャルワーカーの吉岡康栄さんは次のようにいう。

「最近はとくに相談室にくる人がふえているようです。だいたい一日平均8人くらいだと思います。大雑把に分類しますと、ここへくる人というのは、ガンの不安をもっている人、入院治療したいけど経済的に余裕がないという人、本人にはガンだといっていないが、どう扱ったらよいかという家族の方、ガンセンターで調べてもらいたいけど、ガンだと分るのが恐いという人、そういうケースが多いようです。だから、そういう不安をどうやわらげて、早期発見さえできればガンは恐くないということを得てもらうか、というのがいちばん苦心するところですね。

なかには、ガンの手術のあと、極度の不安におちいっている人もありますね。くしゃみしただけで、ガンの

再発じゃないかと思ひこんでしまう。一種のガンノイロイゼでしょうね。それからもう手おくれでどうにもならないという人が、心の平安を保つ上で自分ではどうしても処理できないという方もあります。なかには自殺する人だっているんです。医者が、あの患者がこの頃自殺したい、自殺したいということで困っている、相談にのってやってほしいといっている場合もありますね。

医師だけでは手のまわらない問題を、吉岡さんは患者の身になって、納得のゆくまでともに悩み、ともに語りあい、よい解決の道を見出してゆきたいと語るのである。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

一方、直接患者の治療に当たる医師の立場から、現在のガン治療にかんする問題点を語ってもらった。ガンセンターの外科医長である藤原順氏のことばである。

「最も大切なことは、患者と医師の人間関係の問題だと思えますね。両者の間に信頼関係が確立されていないと、絶対にうまくいきません。

この間池田前首相がなくなられた。病氣退陣された時は、新聞はガンでないと報道しましたね。ところが、いざ死んでみると、本当はガンだったが、さしさわりがあるからガンではないと発表したというのが真相だったわけですね。あのニュースを新聞でよんだ患者、ひどいショックを受けています。自分はガンではないといわれているが、本当のことは隠されているんじゃないかという不安をもっているのです。この病室も、だからこのところ、ちょっと落着きを失っているようです。

お互いが信じ合わなければダメですよ。患者が医師にたいする信頼を失なうのがいちばん危険です。

そのためにはマスコミは細かい配慮をつかってほしいし、私どもとしてもせいっぱいの治療をしたいと願っているわけです。」



ガンセンターの待合室風景

さわやかな秋
神戸っ子が味わう
フランスのお菓子



あなたとパリを結ぶ！
さんちかタウンメゾンドンク開店

フランス菓子メゾン



本店 三宮センター街 TEL095481 4
芦屋店 TEL25137
サンドウィッチパーラー TEL395485
フランスパンコーナー TEL394985
須磨寺店 TEL718752
垂水店 TEL73603



美しい



正確なメガネ

服部メガネ店

大丸前 TEL (33) 1123

秋のご行楽に
神鉄沿線の

松茸狩

山開き 10月3日～11月7日



□ 指定山協定料金

山のすき焼 お1人 1,000円 入山料共
税、サ別

—指定山予約お申込とお問合せは—

神鉄観光

湊川案内所 ⑤⑤7204

三宮案内所 ②②0171

神戸電鉄

爽秋の 須磨浦ロープウェイ



秋の須磨浦山上は、海と山の景観を一度
に楽しめる、素晴らしいコースです。

〈順路〉

須磨浦公園駅下車—ロープウェイ—回転展望閣—
観光リフト—山上遊苑〈ウオータースコープ〉

■ ロープウェイ運転時分
10月31日まで 20時45分まで運転

便利でお得な全コース
クーポン券発売中
兵庫から 240円

山陽電車



★中西勝を欧米へ送る会

★新谷琇紀をローマへ送る夕べ



写真左上は中西勝を送る夕べの大盛況の会場風景。右上は中西夫妻。写真下は新谷琇紀をローマへ送る夕べの盛大な会場。

★中西勝を欧米へ送る会

二紀会洋画家の中西勝氏が十月末に欧米に出発、その歡送会とリトグラフ集「花神」の出版記念を兼ねたパーティーが去る九月十日に農業会館5階ホールで開かれました。

当日はちょうど台風23号の吹き荒れた日、安じられたものの開会寸前に風もまたおさまさり、停電もやっとなおり二百人余りの人が参会、ヒゲの面伯も日頃しめつけぬネクタイ姿、文字通り「花」も「アらし」も踏みこえて元氣に行つて来ます」と、花神」と、台風、にかけてのあいさつでヤンヤの喝采。

又、歡送の言葉として、異議の中村寅一、医師であり絵画取覧家の徳岡英、二紀の青木一夫、彫刻の新谷秀夫、作家の陳舜臣、俳人の赤尾兜子の各氏があいさつ、又竹田洋太郎氏の「中西君は僕や陳舜臣君と同じく大正生まれのネズミ男、大いにあつちこちをちよこまとかじり回つて来てもらいたいものです」で会場も笑いのウズ。中西勝氏の御母堂もおみえになり、「勝のためにいろいろとありがとうございました。母親としてもこんなうれしいことはありません」とあいさつ、このあいさつと余興があり中西氏も「カンキリン」と「乾杯の歌」を唄いおさめ、にぎやかな中にもほのぼのとしたムードに満ちあふれた中西勝氏の人柄がうかがわれる会だ。

★ローマへ留学する新谷琇紀を励ます会

二紀会の若手彫刻家の新谷琇紀氏(神戸女子短大講師)が10月17日羽田を発つて、ローマ芸術大学彫刻専攻科へ一年間留学する。新谷氏は新谷秀雄氏を父に妹の沢子さん、映子さんと四人がそつての彫刻一家。留学にさきがけて世話人会が先輩、友人で、9月22日午後6時よりパウリスタで百五十人が集まつて新谷琇紀をローマへ送る夕べが開かれた。会はホテルの光で初まりテープが乱れ飛ぶなかにレイを飾つた瑠璃氏をシググ「はなむけの言葉」が饒々とスピーチされた。神戸女子短大の行吉吉長は、ローマへ独身でゆかれることを気づかされる言葉、また世話人の赤根和生・山本鎮夫・青木重雄・君本昌久・春木一夫・伊藤誠・木村恵吾・竹田洋太郎・本地寿万子さんの発案で瑠璃氏の「芸術の意欲について」「留学をローマへ選んだ理由」「親孝行について」「名前のいわれ」「フェミニストについて」「優美なヒゲについて」「愛飲家であること」「独身について」のテーマで、彫刻家新谷琇紀を模々な角度から直視、かつ激励の辞となつた。



と第
次の
のり
画当
映手

砂漠から 波止場まで

②1 淀川 長治

ミケランジェロ・アントニオーニがついに色彩映画「赤い砂漠」を生み出した。黒沢明が色彩を手がけたほどの期待です。そして、その色彩は大変なものでした。モニカ・ビッティの扮する人妻が愛の不毛につき当って、どうにもやりきれなくて疲れきってしまふ。その神経が映画になっている厄介千万な映画です。砂の上の椅子に腰をかけていますと、その砂がずるずると崩れだして、私もいっしょにすべり落ちてゆくのですが、誰も助けをくれないうです。彼女はそんなことをいいます。てんでそんな駄目……なら、あきらめて下さい。けれども「感じてやろう」と思う人にはこれは御馳走です。

もっと、こわいのがフェデリコ・フェリーニの「8½」です。この題名はフェリーニがこの映画で八本と半分を今日まで監督してきた映画の本数。半分とはその一本がある監督との共同監督だったからです。自分の作品数を題名にしているようにこれは彼自身の作家苦悩と人生の断面をアヴァンギャルド（前衛映画。純粹に視覚的であり聴覚的である表現）手法で描いていますので「赤い砂漠」以上の「感じてやろう」映画です。その面白さは「赤い砂漠」どころではありません。私は唸り声を出したほどです。けれども私が無茶苦茶のフェリーニ狂のことをお忘れなく。



「ロード・ジム」のピーター・オートウール

ピーター・オートウールの「ロード・ジム」は無声時代にパーシー・マーマントという渋い俳優が一度演じたことがあります。有名なジョセフ・コンラッドの代表作です。航海中に嵐に逢って船員が乗客を見捨ててボートで逃げたのですが、この男はそのことで生涯苦しむ自責自ざやく物語です。「アラビアのローレンス」の海洋版みたいですが、こんどは同じ色彩七〇ミリとはいえ講談調です。そんなら見てやろう……ですか。

シネラマの「偉大な生涯の物語」はジョージ・ステイヴンスが「アンネの日記」以来たしか五年目の大作です。一度このイエス・キリストは見るべきです。「第七の封印」のマックス・フォン・シドーがすばらしいのです。キリストの愛の無限に打たれ、キリストが三十三歳で死んだのではなく、それから生きたのだという。死も肉体もこえたこの愛の偉大さに腰がぬけて、ジョン・ウエインがいつたどこに出ていたかも忘れます。シネラマも大人になりました。

ジャンヌ・モローの「マタ・ハリ」は、フランソワ・トリュフォーがマタ・ハリだったただの女だよとすこしふざけて脚本を書いたのに、監督のジャン・ルイ・リチャールはマタ・ハリはすごい女スパイなんですよと本式に描いてしまったので……ジャンヌ・モローはどっちを演じていいのか、いっそ両方をやってこませと舌を出し

ているような映画になってしまいました。そんなら見てやろう……ですか。

マルチエロ・マストロヤンニの「ゴールデンハントー」は、感じなくなった男のお話です。こんなのはとくに谷崎「癡癡老人日記」で勉強済みですが、これはまだお若いだけにしんこくです。医者はもう女をあきらめたと男をすめますが、そこまでさとれなくて、悩みます。どう悩むかと申しますと感じないのに感じたいからです。そのためあらゆる方法を使います。お若いうちのお遊びはほどほどにといういましめ、映画。やはりこれは教育映画の部に属するのでしょうか。

チャール・ベーカーが一九三七年に二十六歳で急死したジーン・ハーローに扮する「ハーロー」。プラチナ・ブロードと呼ばれた一九三〇年代の映画の花形ジーン・ハーローはこんなチンピラ娘じゃございませんでした。七〇ミリの「素晴らしきヒコキ野郎」は、まさに、素晴らしき映画野郎でした。時は明治四十三年（一九一〇）。世界中からヒコキが集ってロンドン・パリ間

の飛行競走。ニッポンは石原の裕ちゃんです。竹とんぼみたいなヒコキが本格的に空中を前後左右に乱れ飛び、その明治ボンチ絵スタイルが逆にハイカラ趣味を百パーセント生かします。

ジャン・ポール・ベルモンドとジナ・ロロブリジーダの「波止場」……と思つたらこの二人も出ますというレナート・カステルラーニ監督の群像劇でした。ギリシヤのミカエル・カコヤニスが「その男ゾルバ」でギリシヤ人の何たるかを示したように、この「波止場」はイタリア人の何たるかを教えます。「2ペンスの希望」でもこのカステルラーニはすばらしいでしたが、こんども死ぬまで本当に生きぬくイタリア人の汗くさい生活力を描いています。見ていてあきれます。

誰方かが仰言いました。私は食欲は出て脂肪がふえて美ぼう（頭脳も）が減るそうです。それなら……その食欲を映画に移して美ぼう（頭脳）を守りましょう。

〈映画評論家〉

見出し写真は「赤い砂漠」のモニカ・ビッチェイ

——「波止場」のジャンポール・ベルモンドとジナ・ロロブリジーダ——

